

2009 年防府市真尾土石流災害の歴史的背景 Historical backgrounds of 2009 Manao debris flow disaster in Hofu city

釜井俊孝

Toshitaka KAMAI

Succession of debris flow deposits and historical backgrounds of 2009 Manao disaster in Hofu city were discussed. The three stage (event age) of debris flow deposits were found in the valley of the Ueda-Minami river, and AD 1680 -1740 by ^{14}C dating was considered as the age of the youngest event just before the 2009 event. The development of upstream mountainous area (deforestation) from the 14th century led to increasing debris flows in the downstream in other region of Japan, however, the conservancy of forest by esoteric Buddhism temples in this area may introduced few hundreds years delay into the initiation of debris flows in historical age.

1. はじめに

2009 年 7 月 21 日の豪雨によって、山口県防府市周辺では多くの土砂災害が発生した。真尾地区では、特別養護老人ホーム「ライフケア高砂」が土石流の直撃を受け、7 名の死者が発生する事態となった。今回は、この災害の歴史的背景について検討したので報告する。

2. 土石流堆積物の層序と発生年代

土石流が発生した上田南川の谷中及び谷の出口では、過去の土石流堆積物が露出している。それらは、以下の 3 時期（今回以前）に区分される。

I：古期（固結）

II：中期（ルーズだがロームに覆われている）

III：新期（ルーズでロームに覆われていない）

上記のうち、IIIは歴史時代のイベントを示すと考えられる。IIIを整合に覆う砂層（に含まれていた炭）の絶対年代(暦年較正值)として、1680 年-1740 年 or 1800 年-1940 年 or 1950 年-1960 年 が得られた。このうち、新期土石流堆積物の作る地形面が米軍空中写真に写っていることから、1950 年-1960 年の可能性は消去できる。また、不明確ではあるが、過去 200 年間は土石流災害が発生していないとの証言が存在する。したがって、IIIの年代としては 1680 年-1740 年が有力である。

3. 松尾山天皇院

旧真尾村には、9 世紀以降、有力な山岳寺院（松尾山天皇院）が成立していた。天皇院は中世には荘園領主化したため、天台密教が展開された真尾

村周辺の山地は宗教的空間として長期間保護されていたと考えられる。しかし、天正 9 年（1581 年）、「群盗松尾森國等之長臣に組し、多勢一山に乱入し僧侶僮僕を殺害し名器財宝奪取僧坊に放火す」という事件が発生し、「防火能わす、餘煙一山之伽藍に及、諸堂焼亡」という事態になった。中世末期から近世初頭は、多くの山岳寺院が消滅ないしは衰退に向かった時期である（例えば、南山城の光明山寺、北近江の弥高寺）。同時期に起きた天皇院の滅亡も、強力な武家勢力の伸張という共通する社会現象を反映した出来事であったと考えられる。

4. 土石流災害の歴史的背景

近畿地方では、山林の開発によって土石流災害が活発化するの、南北朝期以降である。中国地方でも先進地域であった防府周辺では、天井川化が中世までさかのぼり得る事がわかっている（大樋土手の発掘結果）。したがって、真尾地区における歴史時代の土石流活発期は、他の先進地域よりも数百年遅れて始まったといえる。おそらく、天皇院の存在が、真尾地域における開発の抑止力となっていたためと考えられる。一方、1700 年代以後も小規模な土石流は発生したはずであるが、村の記憶には残っていない。恐らく、歴史時代の土石流堆積物の大半は谷の中にとどまっており、災害に至らなかったためと考えられる。しかし、その結果として土石流の予備物質が谷の中にたくさん貯留され、その事が今回の災害の大規模化を招いたと考えられる。

